



森ボラ 通信

第54号 2006年11月20日発行
N P O 法人 北海道森林ボランティア協会
札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F
Tel:241-8155 Fax:241-8308
E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp
URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■トピックス

◆ 支笏湖国有林「復興植樹」現場確認



11月17日(金)来年からの仕事になる支笏湖国有林の下見会に酒井代表と高野が参加しました。10時30分現地に近い開発局丸山駐車場に集合の後、森林管理局の案内で現地に入りました。場所は支笏湖千歳線(16号線)に近接した平坦な5218林班は小班です。担当面積は1畝です。千歳市外まで約15km、支笏湖湖畔まで約10kmぐらいです。これからセブン・イレブン植樹地と同じ状態に重機で地拵えがおこなわれ、来春の植樹時期までに案内看板等々も設置されるようです。植栽樹種は針葉樹、これもセブン・イレブンと同じです。この日は5団体が参加していました。ボランティアは当協会だけ

で、他は大手の企業、北ガスとかリコーの社名が聞こえました。

◆ 澄川木道工事

11月10日(金)前日は午後から降雨中止にしたので、木道を完成させるために1日追加作業を行い、構造物は3ヶ所とも一応の形ができました。大工と土方の力仕事でしたが、専門家は1人もいません。いかにも素人仕事であることが一目瞭然ですが、それが味わいを醸しておりまして、現場に調和したまことに結構な出来栄であります。残した作業は防腐処理ですが、これは雨天を避け木材の乾燥状態を見定めて来春年度末までの間にポチポチと片付けたと思います。



この夏澄川の沢でホタルの群舞を確認してから、ホタル生息湿地環境保全の声が上がり、資金手当てを札幌市シニアチャレンジに申請しましたところ、採用となりましてから、にわかに忙しいことになりました。年度内の仕事になったわけです。実際的には根雪になる前に片付けなければならないので、材料手当て、運搬、材料加工、杭打ち等架設工事と進めまして、重い厚板を2人1組の人力のみで約60枚

を現場まで山道を運んだわけです。全員60以上の高齢者としては極めてハードな仕事でしたが、やり遂げた爽快感は格別なものであります。これからは靴を濡らさないで対岸に涉ることができます。参加者のみなさん、本当にご苦労様でした。



◆ポスターセッション 2006

森と人のつながりを育む「道民森づくり」ネットワークの集い(ポスターセッション)に協賛・参画してきました。2002年10月28日(土)、赤レンガ庁舎の前庭が会場となり、昨年同様に森ボラの主な活動写真をパネル化し掲示。パンフレットと共に、杉本さんのピノキオやドングリ、マッポックリが彩を添え、澄川の森から採ったコクワの実は中学生や年配者に珍しがられ、森ボラの活動を伝えるきっかけとなりました。会場は野外で、好天に恵まれたとは言え時節柄風も冷たく少々寒かったです。掲示場も複雑で来場者も昨年を下回ったように感じられました。次回も、森ボラ活動を写真で伝える輪を広げたいと考えています。(西野 記)



◆ 宮の森中学校訪問学習

10月27日(金)参加8名。宮の森中学校1年生の一行9名(男子6、女子3)は地下鉄真駒内駅10時発のバスで豊平清掃事務所前に定刻の10時20分に到着しました。当初学校側は神宮林を想定していましたが、当協の意向をくみいれて澄川で実施することになりました。中学生ならば社会勉強のためにも地下鉄やバスを乗り継いで豊平清掃事務所前まで来てもらう方が良いと判断しましたので、現地まで来てもらった次第です。ただちにキノコの沢に案内し、道々森の状況を説明しながら第一現場に到着。沢を渉り対岸の森でまずは除伐の意義を解説し、腰鋸で切れる太さの小径木を一人1本ずつ伐採体験をしました。次いで対岸の作業道を上流に移動し、第二現場の木道架設現場でホタルの生息環境保全の木道の意義と架設状況を見てもらいました。次いでベース広場に誘導し、昼食前に紙芝居方式による当協会の存在意義と活動状況を説明し、昼食。午後はコクワ採りを楽しみました。おみやげとして持ち帰りいただくほどの大収穫でした。予定時間より30分程度早く地下鉄真駒内駅に送り、そこでお別れしました。



■ 今月の幹事会

出席者：荻田、酒井、杉本(茂)、高野(豊)、西野(悌)、棟方、和田

1 冬季活動の件 勉強会方針(案)

| 月 | 講師 | テーマ |
|-----|-----------|-----------|
| 12月 | 高野、西野 | スズメバチの話 |
| 1月 | 当協、クマガラ、他 | ボランティア交流会 |
| 2月 | 未定 | 未定 |
| 3月 | 寺沢北大名誉教授 | 樹液の話 |

2 木道防腐処理の件(気温5度以上で、晴天日)

3 ホダ木用伐採の件(来春樹液の上がる前までに済ませる)→1~2月にチェーンソー主体の作業日を設定

4 支笏湖国有林1ha申し込み、17日現地説明会→事務局対応

5 平成 19 年度 森林作業の基本方針

| 担当森林 | 施業内容 | 必要作業日数 | | 作業月/旬 | 備 考 |
|--------|-----------------------|--------|----|--------------------|-------------------------------|
| 有明第二 | 草刈、 補植、 新規植栽地拵え | 4 | 4 | 6/下～7/上 6/下～7/上 | チシマザサ密生地 山引苗採取(野幌、支笏湖用も含む) |
| 澄川 | 除伐 | 24 | 30 | 4～11 | シイタケ栽培、東屋設営、製材 |
| 西野第二 | ニセアカシヤ撲滅 | 4 | 5 | 6/上 | 下刈り、萌芽刈 |
| 北海道神宮 | 外来撲滅 | 15 | 8 | 7～8 | 側域林、後域林 |
| 野幌国有林 | 草刈(18列×2回) 補植 | 16 | 5 | 5/中～7/上 | 手刈り |
| 藻岩国有林 | 人工林間伐 | 10 | 3 | 10 | 3年計画の最終年 |
| 支笏湖国有林 | 植苗(1000本)、 草刈(1ha) | | 3 | 5/下 7/下 | 初年度 5月植苗 1回目 7月 |
| 支笏湖国有林 | セブンイレブン | | 2 | 5/上 | 踏み、下刈り |

6 忘年会(12月5日、登別温泉石水亭 10650/人 飲み放題 25人程度で貸切バス)

7 木工納会(12月26日、木工最終日、飲食各自1品持ち寄り)

8 認定NPO法人申請(税務署)

9 入林交通費補填基準案(5回以上)、(公共交通機関利用者の復路は除く)、(ガソリン@125)

会員の動向

入会者：管野泰子

■おしらせ

忘年会

日時：12月5日(火)札幌駅北口発 14:00 → 石水亭着 15:30

場所：登別温泉 石水亭(Tel0143-84-2255)

備考：札幌駅での受付は駅正面付近で「野口観光」

復路 石水亭発 10:00→札幌駅北口着 11:30



↑澄川の物置、修理しました

木工納め会

日時：12月26日(月)12:00～

場所：杉本邸

備考：アルコール付につき、各自公共交通機関でおいでください。

料理1品ずつ各自持参



ボランティア交流会

日 時：平成19年1月20日(土)13時30より

場 所：リンケージプラザ

参加団体：NPO 北海道森林ボランティア協会

石狩森林ボランティア(クマゲラ)

北広島森林ボランティア(メイプル)

当別森林ボランティア(シラカンバ)

内 容：詳細は調整中(12月号に掲載予定)

■活動履歴

| 活動日 | 場所 | 参加人数 | 活動内容 |
|-------|------------------------------|------|-----------------|
| 11/13 | 金市館 | 8 | 幹事会 |
| 11/10 | 澄川 | 10 | 木道 |
| 11/9 | 澄川 | 15 | 木道 |
| 11/8 | 澄川 | 11 | 木道 |
| 11/2 | 澄川 | 9 | 木道 |
| 11/1 | 西野第二 | 6 | 歩道計画 |
| 10/31 | 澄川 | 12 | 木道 |
| 10/30 | 澄川 | 10 | 木道 |
| 10/27 | 澄川 | 8+9 | 木道、宮の森中学校 |
| 10/25 | 澄川 | 18 | 木道 |
| 10/23 | 木工 | 14 | |
| 10/20 | 澄川 | 6 | 木道杭打ち試験、架設試験 |
| 10/19 | 北海道神宮 | 17 | 年度最終、片付け、木道材料運搬 |
| リンゴ園 | 10/20、24、27、11/2、7、8の6回、収穫作業 | | |

■ひとこま

澄川の山の幸

今年の澄川森林は森林副産物で賑わいました。春の山菜はたいしたことはありませんが、除伐を開始してから5年目にもなってきましたと、残置材の腐朽が進みまして、いろいろなキノコが生えはじめました。食用になるものでは、ハナイグチ(ラクヨウ)、ナラタケ(ポリポリ)、ヌメリスギタケモドキ(ヤナギタケ)、エノキダケ(ユキノシタ)などが豊作でした。試験栽培したシイタケも4年目に入り6月頃から11月初旬まで幾度も収穫しました。これから除伐するミズナラでさらにシイタケ栽培をつづけましょう。

強風で蔓にからまれた立ち木が倒れ、食べごろのヤマブドウやコクワにありつけました。生食はもとよりジャムや果実酒にして楽しんだ方も多かったと思います。



澄川のエゾフクロウ

11月8日(水)昼食休憩時にエノキダケを探しに藪を漕いでいました。大型の鳥が私の接近を避けて飛び立ちました。近くに止まった様子でした。オオタカか? と思い、ゆっくり近づきました。なんとエゾフクロウが私を見下ろしていました。嬉しくなりまして早速挨拶をし、まじまじと観察させていただきました。わが協会のシンボルマークなのですからもっとお近づきになりたいと接近しました。4メートルぐらいまで許してくれました。残念無念なことに手ぶらでした。そっと離れてカメラを取りにゆきました。20分は経過しましたが、もしかしたら再会できるかも、と願いましたが、撮影はできませんでした。再会に同行した西野さんが飛び去る影を確認してくれました。追跡しましたが再会はできませんでした。証拠写真はありませんが、エゾフクロウも生息してくれていることが分かりましたので、この環境の保全にたずさわっている幸をありがたく思ったことでした。先年出会ったクマガラとオオタカを含め、ホタルもこの森の豊かさを証明してくれていると思ったことでした。



錦秋の澄川